

アクティベート保育学②

『保育者論』

カリキュラム対応表

教育職員免許法及び同施行規則の改正に伴い、2019年4月1日より新教職課程が開始されることとなり、教職課程コアカリキュラム（以下、「コアカリ」）への対応が求められています。幼稚園教諭に関しては、文部科学省からの委託研究の成果として一般社団法人保育教諭養成課程研究会が「モデルカリキュラム」を提示しています。一方、保育士養成については、「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について（通知）」において、教科目の教授内容（以下、「教授内容」）が示されています。

そこで本書は、これらの内容を踏まえつつ、学生の学びがより深まるよう目次を構成しています。

本書の目次構成とカリキュラムの対応等を次ページ以降にまとめているので、授業構想等にご活用いただければ幸いです。

※なお、カリキュラム対応表については、以下の方針で掲載しております。

- ・幼稚園教諭の教職課程、保育士養成課程それぞれ単独の科目については、その一方のみ掲載。
- ・上記両課程に共通している科目については、「コアカリ」と「教授内容」の両方を掲載。
- ・「モデルカリキュラム」があるものについては、「コアカリ」ではなく「モデルカリキュラム」を優先して掲載。

〈カリキュラム対応表〉

章番号	章タイトル	保育士養成課程教授内容																
		1.			2.			3.					4.			5.		
		(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)
第1章	保育者とは	○																
第2章	保育者になるために																	
第3章	幼稚園教諭の仕事とその一日																	
第4章	保育士の仕事とその一日	○																
第5章	子どもの内面や発達を理解する保育者																	
第6章	遊びを援助する保育者																	
第7章	個と集団を生かす保育者																	
第8章	家庭や地域と連携・支援する保育者																	
第9章	多様な子どもとの理解と支援する保育者																	
第10章	教材などを通して学びを深める保育者																	
第11章	成長する保育者と同僚性																	
第12章	保育者の専門性	○																

〈保育士養成課程 教授内容〉

<p>保育者論</p> <p>1. 保育者の役割と倫理</p> <p>(1) 役割・職務内容</p> <p>(2) 倫理</p> <p>2. 保育士の制度的位置付け</p> <p>(1) 児童福祉法における保育士の定義</p> <p>(2) 資格・要件</p> <p>(3) 欠格事由, 信用失墜行為及び秘密保持義務等</p> <p>3. 保育士の専門性</p> <p>(1) 保育士の資質・能力</p> <p>(2) 養護及び教育の一体的展開</p> <p>(3) 家庭との連携と保護者に対する支援</p> <p>(4) 計画に基づく保育の実践と省察・評価</p> <p>(5) 保育の質の向上</p> <p>4. 保育者の連携・協働</p> <p>(1) 保育における職員間の連携・協働</p> <p>(2) 専門職間及び専門機関との連携・協働</p> <p>(3) 地域における自治体や関係機関等との連携・協働</p> <p>5. 保育者の資質向上とキャリア形成</p> <p>(1) 資質向上に関する組織的取組</p> <p>(2) 保育者の専門性の向上とキャリア形成の意義</p> <p>(3) 組織とリーダーシップ</p>

〈カリキュラム対応表〉

章番号	章タイトル	コアカリ到達目標							
		(1)		(2)		(3)			(4)
		1)	2)	1)	2)	1)	2)	3)	1)
第1章	保育者とは	○		○	○				
第2章	保育者になるために	○	○					○	
第3章	幼稚園教諭の仕事とその一日		○			○	○		
第4章	保育士の仕事とその一日		○			○	○		
第5章	子どもの内面や発達を理解する保育者								
第6章	遊びを援助する保育者								
第7章	個と集団を生かす保育者								
第8章	家庭や地域と連携・支援する保育者			○					○
第9章	多様な子どもの理解と支援する保育者			○					○
第10章	教材などを通して学びを深める保育者				○				
第11章	成長する保育者と同僚性						○		○
第12章	保育者の専門性			○	○		○		

〈コアカリ到達目標〉

<p>教職の意義及び教員の役割・職務内容</p> <p>(1) 教職の意義</p> <p>1) 公教育の目的とその担い手である教員の存在意義を理解している。</p> <p>2) 進路選択に向け、他の職業との比較を通して、教職の職業的特徴を理解している。</p> <p>(2) 教員の役割</p> <p>1) 教職観の変遷を踏まえ、今日の教員に求められる役割を理解している。</p> <p>2) 今日の教員に求められる基礎的な資質能力を理解している。</p> <p>(3) 教員の職務内容</p> <p>1) 幼児、児童及び生徒への指導及び指導以外の校務を含めた教員の職務の全体像を理解している。</p> <p>2) 教員研修の意義及び制度上の位置付け並びに専門職として適切に職務を遂行するため生涯にわたって学び続けることの必要性を理解している。</p> <p>3) 教員に課せられる服務上・身分上の義務及び身分保障を理解している。</p> <p>(4) チーム学校運営への対応</p> <p>1) 校内の教職員や多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解している。</p>
